

日整
トピック

接(整)骨術の祖・『正骨範』の著者 二宮彦可 墓碑跡に説明板設置

(にのみやげんか)

先人の歩みを大切に

会長 萩原 正

この度、東京都柔道接骨師会と台東支部のご尽力により、『正骨範』の著者・二宮彦可先生の墓碑跡に説明板が設置されました。墓碑跡保存計画は、経緯により台東支部が中心となり進めてきたと聞いております。台東区教育委員会の文化財保護委員会にて形あるものとして残していただけるまでに5年間を要し、島支部長をはじめ、関係者の並々ならぬ努力がうかがえます。ご尽力に対して衷心より感謝を申し上げますとともに、柔道整復師の一人として深甚なる敬意を表します。

二宮先生は研究心旺盛で口中科、内科をはじめ、医師として多くを極めた学者であり、現代医学の祖といっても過言ではありません。著書『正骨範』は、高志鳳翼の『骨継療治重宝記』と各務文献の『整骨新書』と並んで江戸時代の3大接骨書の一つであります。

このように後世に足跡を残された我が国の接(整)骨術の偉大な先覚者を供養し、ご功績を称えていくことは大変意義深いものがあります。

社団法人 東京都柔道接骨師会 台東支部
支部長 島 英治
副支部長 大澤 政春
副支部長 原 秀樹
総務部長 山口 尚

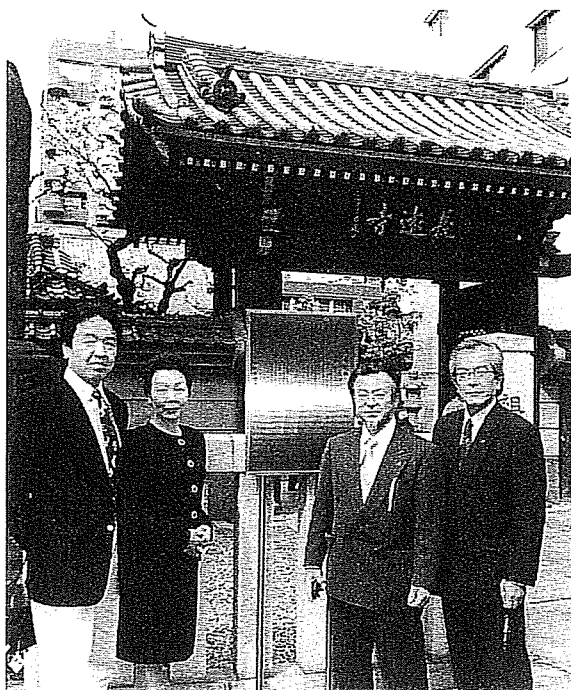
東京都柔道接骨師会(以下都柔接)と台東支部が台東区教育委員会へ働きかけ、接(整)骨術の基礎を築いた二宮彦可の墓碑跡へ説明板が平成18年3月30日設置されました。

二宮彦可は生前、よく長遠寺近辺で医術者

らと親交を深めていたため長遠寺(じょうおんじ:元浅草2-2-3)に葬られました。

この二宮彦可の墓碑跡がある長遠寺へは都柔接と台東支部会員が毎年墓碑跡にお参りしており、長遠寺山本住職との親睦が深まると共に、二宮彦可の墓碑跡に対する説明板設置のお願いも行って参りました。

お墓参りも5回を数えた頃、住職のご意図もあり、説明板の場所が見学しやすい長遠寺山門脇に設置される運びとなり、関係者からは「病弱にめげる事無く、常に明るく前向きな姿勢で研鑽し、整形外科・整骨術の基礎を築いた二宮彦可先生は、我々の業祖と仰ぐ人。これからも毎年お参りを続けて先生の功績を讃えていきたい。また説明板が設置されたことで多くの人に知ってもらいたい。尚、説明板設置までご支援、ご協力頂きました皆様にお礼と感謝を申し上げます。」との言葉が聞かれました。



▲説明板を前にして原秀樹会員、山口夫美子会員、島英治会員、大澤政春会員

説明板設置後の5月13日には長遠寺にて、台東区より教育長はじめ4名、都柔接より工藤会長の意を受けて春原総務部長はじめ3

名、台東支部より島支部長はじめ4名参列し、法要が滞りなく営われました。

説明板の和文、英文の内容

二宮彦可 (二七五四―一八二七) 墓碑跡

台東区元浅草二丁目二番三号 長遠寺

二宮彦可は江戸時代後期に活躍した医師。宝暦四年(一七五四)三河国(愛知県)岡崎藩主の侍医で国学者でもある小篠敏の長男として、遠江国(静岡県)浜松近郊の叟楽村に生まれる。名は献。字を彦可・齡順といい、号を叟楽・擁鼻と称した。幼少時に乳母から梅毒が感染して、病弱ため廢嫡となるが、明和四年(一七六七)同藩の口中科医である二宮元昌の養子となり家督を継いだ。

明和六年(一七六九)藩主の転封により石見国(島根県)浜田に移る。十九歳の頃から各地で医学を学び口中科を山県良班(広島)、内科を恵美三白(広島)、眼科を三井玄孺(大坂)、産科を賀川玄吾(京都)、内科を山脇東門(京都)に学んだ。また赤松滄洲(赤穂)、湯浅常山(岡山)、亀井南溟(福岡)を歴訪している。天明八年(一七八八)には長崎に留学して吉雄耕牛にオランダ外科を学び、さらに吉原杏蔭齋のもとで整骨術の秘訣を伝えられた。寛政三年(一七九二)帰国して浜田藩主の侍医を務め、同五年(一七九三)藩主に随行して江戸に赴き、木挽町五丁目(中央区銀座)に住居した。文化五年(一八〇八)に『正骨範』二巻を出版したが、これは吉原杏蔭齋に学んだ整骨術に改良を加え、中国・西洋の諸書を参考としてまとめたもので、整骨術の古典として評価されている。

文政十年(一八二七)十月十一日没。七十四歳。浅草長遠寺に葬る。法号は禱徒院了服日治居士。墓碑は大正十二年(一九二三)の関東大震災などで焼失し、共同墓地に埋葬される。ほかに一族の墓碑の一部が残る。

平成十八年三月

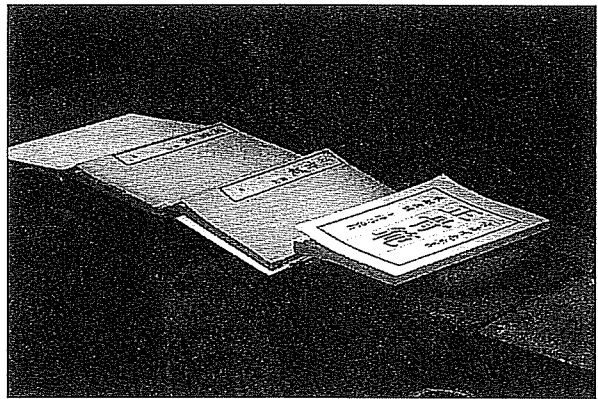
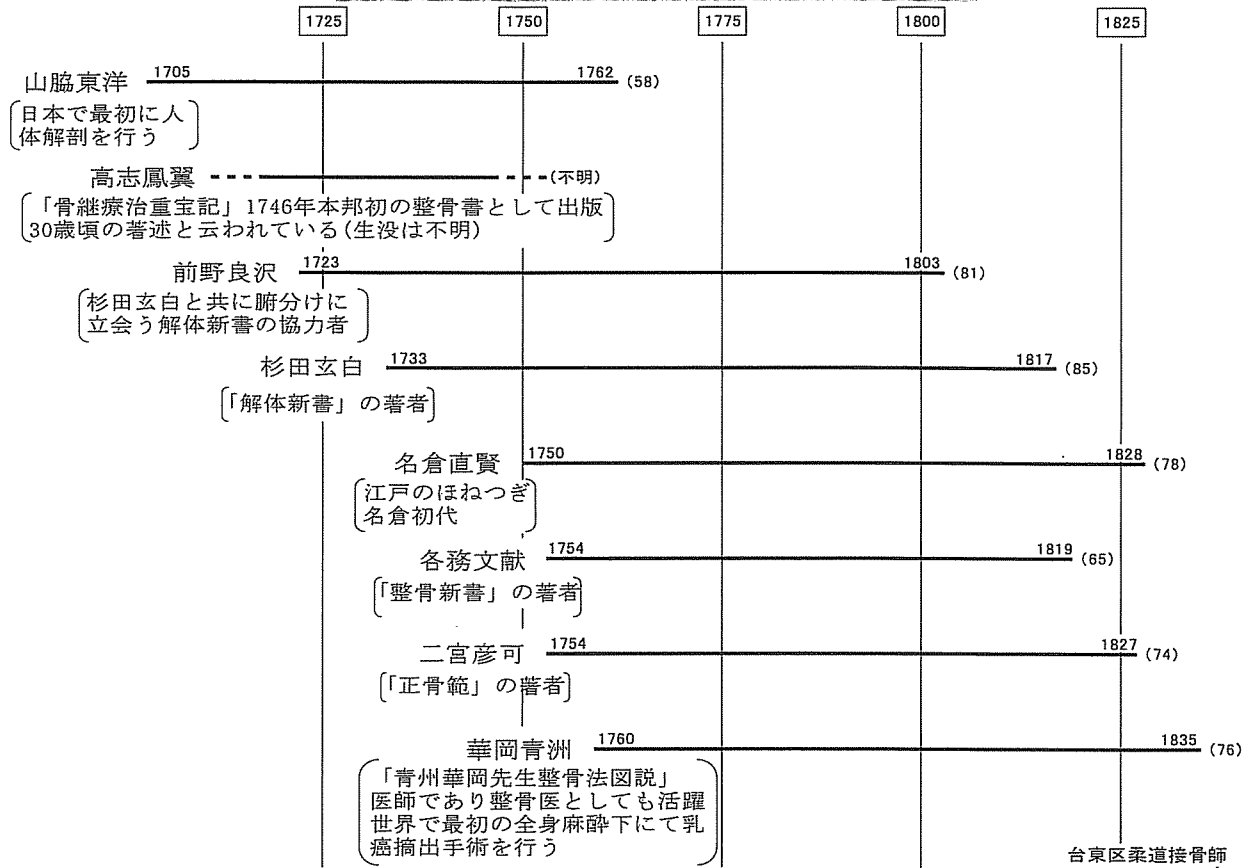
台東区教育委員会

Burial Site of Genka Ninomiya

Genka Ninomiya was a high-profile medical doctor of the late Edo Period, who laid down the foundations of orthopedic surgery. He was born under the Okazaki clan in Mikawa-no-kuni (Aichi Prefecture) in 1754, and moved to Iwami-no-kuni (Shimane Prefecture) due to the lord's relocation in 1769. After studying under doctors and scholars across the country and building a system of bonesetters, he made a great career in Edo and published "Seikotsuhan" in 1808, which is highly regarded as a classic in bonesetting. He died at the age of 74 in 1827. Genka Ninomiya's gravestone in Jōonji Temple, Asakusa, was destroyed by fire during the Great Kanto Earthquake in 1923. So, he was reburied in Jōonji's cemetery.

(ステンレス製、縦70センチ、横50センチ、脚を含めた高さ175センチ)

江戸時代における整(接)骨、整形外科の著名人



◀二宮彦可著『正骨範』二巻

整骨医の元祖
しのぶ説明板

浅草・長遠寺に設置

江戸時代後期の医師で、日本の整骨医の元祖とされる二宮彦可。台東区元浅草2丁目の長遠寺にあるその墓碑跡に30日、功績を伝える説明板が設置された。

真左端Ⅱらが見に訪れた。

現在の静岡県浜松市近郊に生まれた彦可は、長崎でオランダ外科や整骨術の教えを受けた。1808(文化5)年にまごめた「正骨範」は、整骨術の古典として評価されている。

没後、長遠寺に葬られたが、墓碑は関東大震災で焼失し、同寺の共同墓地に埋葬されている。

▶掲載メディア

朝日新聞・東京川の手欄18・3・31(右)

その他/区民新聞/日の出新聞/台東区
広報4月5日号/台東区ホームページ

